



はんど(水甕)



北前船寄港地



石州半紙



石州来待瓦

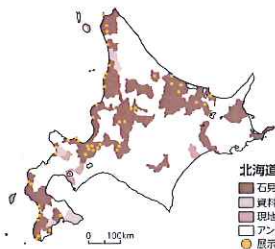
北前船で交流があつた 北海道と神々の国「島根」

かつて北海道と山陰の出雲・石見国は、北前船で結ばれていました。北海道からはニシン、昆布、出雲からは木綿や木材、石見からは石見焼き、石州半紙、石州瓦が運ばれるなど、人とモノの交流が行われていたようです。



石州瓦のあるさと島根県

今も北海道には、石見焼き「はんど」という名の水甕が各地に残っています。日常の暮らしの中で石見焼きが使われていたと思われます。



北海道に分布する石見焼きの点在地域

- 石見焼きのある北海道の市町村、資料館等
- 資料館等で展示・保存
- 団地の市街地などで発掘
- アンケートや調査で発掘(現地未確認)
- 展示・見学施設



資料提供：島根県立浜田高等学校 阿部志朗 教授

当時の石州瓦は赤色の石州来待瓦。主に神社・仏閣などの屋根に葺かれていました。



輪神大社宮(津和野)



延徳庵(津和野)講堂(津和野)

北海道と島根 交流の復活が始まりました。私たちはこの始まりを「現代の北前船で結ぶ縁」と考えています。

速に強だけでなく、耐塩害性や遮音性に優れ、性能面で進化した「セラミックルーフ」が、このたび北海道の住まいや大型建築物に採用されました。少しばかりご紹介します。



伊達市観光物産館



S邸(佐田(宝塚市))

今でも続いている神楽という「喜しの文化」交流

北海道中札内村の元更別大國神社は、出雲大社の神祇「大國主命(おおくにぬしのみこと)」を祀る神社。この神社に島根県石見地方が発祥の「石見神楽(いわみかくら)」の保存会があります。大正8年(1917)、島根県日和村(現、邑南町)から元更別地区に入植した開拓者たちが厳しい農作業の合間の娯楽として始めました。そして昭和60年(1985)以降、両地区間で神楽の交流が続いています。



「石見(しんけん)」地社(すず)日知夫(すず)の(すず)舞(すず)

